# 写真が語る戦前の深江の幼児教育

館長　大国正美

深江には戦前、愛児園というキリスト教系の「私立幼稚園」があった。昭和四年（一九二九）の卒園式の写真が残っていて、幼児二十人と保母ら四人が写っている（写真1）。村史編さんに協力いただいた浅野猪子さん、団野清さんが写っていて、前列左から四人目が団野さん、後列右端が浅野さん、保母のうち右端は春名先生だという。写真右側の背後、樹木の向こうに見えるのは、深江文化村を設計した吉村清太郎氏の家で、現在の深江南町二丁目、東公園の南に五〇㍍ほど下がったところにあった。

大西令子さんと藤本吉江さんが、本庄ふれあいのまちづくり協議会機関紙「波の音」（平成二十二年三月）に以下のように紹介している。大西さんは昭和十年生まれで愛児園に通っていた旧園児でもある。

昭和の初期から始まり、戦前または戦中の混乱の中、閉園になったようです。主に深江と神楽町（現在の深江南町一丁目）、遠くは芦屋から、約一五名の子どもたちが通園していました。当時の幼稚園は、現在の幼稚園のように、ほとんどの子どもが就学前に通うようなものでなく、裕福な家庭や、家が商売などで父母共に忙しいといった、ごく一部の子どもだけが通うものでした。この幼稚園では、先生の弾くオルガンで唄ったり、お弁当を持って来てみんなで食べたり、本庄小学校の運動会に参加したこともあったようです。遠足は、近くの梅林（現在の「深江南町二丁目」バス停東側附近）に行ったり、卒園式には園児らが花かごをもらって記念写真を撮るという現在の幼稚園と同じような光景が八〇年ほど前にもありました。

これは団野清さんもほぼ同じ記憶を持っていて、『生活文化史』第三三号に同様の記録を残している。大西さんは米穀商の娘、浅野さんの弟で近世以来の酒造家永田家出身の永田健さん（昭和十二年生まれ）も通っていたことから、通っていた子供の階層が知られる。

これらのことから、浅野さんや団野さんの卒園写真が現存する昭和四年から永田健さんが通園していた昭和十八年ごろまで、確かに存在したことが明らかである。ところが『兵庫縣管内學校、幼稚園、教員養成所、圖書館、青年團、婦人會一覧』（兵庫縣總務部調査課編）などの公式記録には登場しない。その理由は不明だが、幼稚園の設置基準を満たさず、正規の幼稚園として認定されていなかったのだろうか。経営者など分からないことだらけで、情報があれば提供してほしい。

写真１　愛児園の卒園式（昭和４年、浅野猪子さん提供）

愛児園の公式記録を追ううちに、愛児園に似た幼稚園として愛児の園幼稚園を見つけた。この幼稚園は本山村森字森ノ岡、現在の森北町一丁目にあった。『兵庫縣管内學校、幼稚園、教員養成所、圖書館、青年團、婦人會一覧』によると、愛児の園幼稚園は定員六〇人、設立年次は、昭和六年二月、同年四月、同五年四月の三種類の記録があるが、昭和十一年以降は昭和五年で統一されている。三月一日時点の園児数は昭和六年はゼロだが、同七年＝二組男児三〇・女児三〇▽九年三月＝三組男児二七人・女児二七人▽十年＝三組男児二九人・女児二六人▽十一年＝三組男児二六人・女児二一人▽十二年＝三組男児二八人・女児二三人▽十四年＝三組男児一八人・女児二五人▽十四年＝二組男児一八人・女児二〇人―となっている。愛児園と同時期に存在したのは間違いないので別の幼稚園だろう。

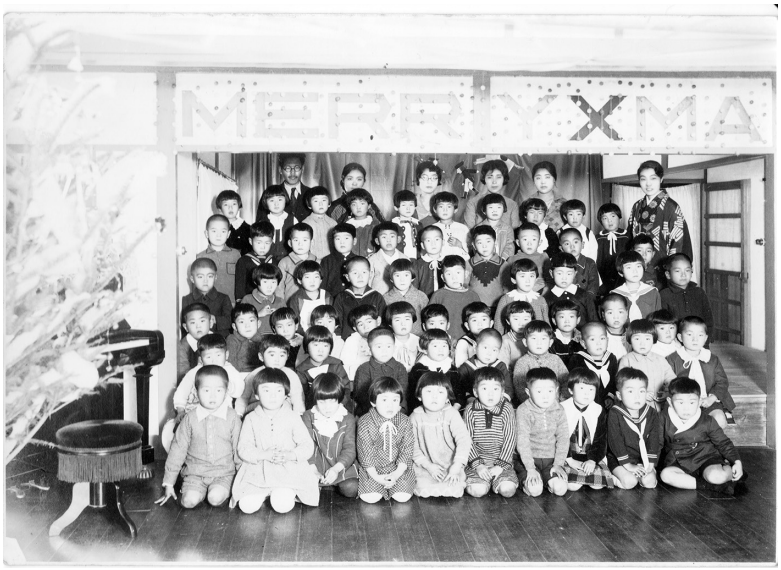

写真２　愛児の園幼稚園のクリスマスパーティ（昭和12年、黒田賢二氏撮影）

森地区なので国道二号以北の旧本山村の幼児が中心だったとは思うが、深江に居住していた子女が通っていた可能性がある。

というのも、大正期から昭和中期まで深江永江町（現深江本町一丁目に居住した医師黒田賢二氏が撮影したアルバムの中に「愛児の園幼稚園」と題した昭和十二年のクリスマスでの写真が残っているからである。黒田賢二氏は栃木県の出身で大正三年（一九一四）大阪大学医学部の前身にあたる府立高等医学校を卒業、大阪市西区九条で黒田医院を開業しながら深江に住んだ。昭和十五年十二月の「灘深江土地区画整理組合の「土地区画整理登記申請書」にある黒田氏の申請書によると、黒田氏の大阪の住所は西区本田町通二丁目五九番地。深江の住居は、字池ノ下で区画整理によって深江永江町六丁目一四番地になった。黒田氏のアルバムについては本誌四二号（二〇一四年三月）で、撮影した写真を紹介した。このたび孫の福田憲子さんから昭和十年から十二年にかけたアルバム三冊の寄贈を受けた。この中に、前述した「愛児の園幼稚園」のクリスマスパーティの写真が含まれている。

写真に見る園児の人数は愛児園の数より多く、『兵庫縣管内學校、幼稚園、教員養成所、圖書館、青年團、婦人會一覧』に記載された人数に近い。また左端にはピアノも写っていて、「オルガンを使っていた」という大西令子さんや団野清さんの記憶とも食い違う。いずれにしても戦前の深江の子どもたちの日常生活を写した一枚である。

なお公的な幼児教育といえば昭和十九年に本庄小学校に併設で本庄幼稚園が設置され藤田幸伸校長が園長を兼務、保母として廣瀬義子・藤井明子、助保母として松井喜代子がいた。『本庄国民学校沿革史』によれば、「園児ハ桜菊ノ二組デ七十四名ヲ入園」とある。しかし戦争が激しくなり昭和二十年は、保母は藤井明子一人となり、休園している。